

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

120年を超える伝統を有する本校は、先進的な中高一貫教育を通して、地域や世界と協働しながら深い教養と探究心・豊かな人間性を涵養し、「地球的視野を持って未知の課題に挑み、地域や社会に貢献するグローバル・リーダー」を育成する。 ＜中高一貫教育を通して育みたい力＞ (1) グローバルな視野とコミュニケーション力 (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力 (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (1) 新学習指導要領の確実な実施のため、各教科・科目においては、確かな学力を育成すべく観点別評価を踏まえた授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。 ア 「授業改革推進委員会」を核として、観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。 イ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。 ウ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1人1台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。 ※（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度(R03：84％、R04：85％、R05:90%)を向上させ、令和8年度も90％以上を維持する。 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み (1) スーパーサイエンスハイスクールとして、南河内地域科学教育のセンター的役割を果たす。「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。 ア 科目「グローバル探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携による先進的な理数系教育を実践し、社会への貢献意識及び自己実現意識を育み、世界とつながり活躍できる科学的人材を育成する。 イ・中高一貫した進路指導実現のため、進路指導部及び学力向上戦略委員会が中心となって、キャリア教育も含め様々な取組みの具現化を図る。 ・国公立大学進学者の合格者数（現役合格 R03：49名、R04:85名、R05:72名）について、令和8年度には現役で100名以上をめざす。同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増を図り、令和8年度には現役合格者数30名以上をめざす。 ※（生徒対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度(R03：91％、R04：91％、R05:94%) 令和8年度も90％以上を維持する。 また、（保護者対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度(R03：74％、R04：79％、R05:80%)を向上させ、令和8年度に85％をめざす。 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康・体力をはぐくむ取組み (1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。 ア ＜中高一貫教育を通して育みたい力＞の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。 イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成し、互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。 ウ 通級指導教室へ生徒が参加しやすい環境を整える。また、生徒・保護者への周知に努める。 ※（生徒対象）学校教育自己診断の学校行事満足度（R03：95％、R04：94％、R05:95%）令和8年度も90％以上を維持する。 (2) 異文化交流や共同研究による国際教育を中高一貫して推進する。 ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。 イ・台湾の姉妹校やアメリカの交流校との関係を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修等を通じて新規姉妹校の開拓を図る。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。 ※（生徒対象）学校教育自己診断結果で国際交流等についての評価（R03：86％、R04：85％、R05:91%）令和8年度も90％以上を維持する。 4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携 (1) 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、6年一貫した教育活動の充実を図る。 ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、それぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。 イ 全国の中高一貫校やSSH校等の教育先進校を視察し、各校の取組みに学び、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。 ※（保護者対象）学校教育自己診断における情報発信の満足度(R03：93％、R04：93％、R05:95%) 令和8年度も90％以上を維持する。 (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを進めるとともに地域貢献を推進する。 イ 教育環境を整備し、安全・安心な学校づくりに努める。 ※学校教育自己診断における学校満足度(生徒対象 R03：94％、R04：94％、R05:92% ／ 保護者対象 R03：93％、R04：92％、R05:93%)について令和8年度も90％以上を維持する。 5 働き方改革の推進 (1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。 ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、また全校一斉定時退庁日の徹底等により在校時間を定められた上限の範囲内にする。 イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材活用等アウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定率は89％と過去最高である。特に「深く考えさせる授業が多い」という項目において88％の高い評価を得ている。授業改善シートの提出率も100％であり、教員の授業力向上の成果が現れている。 また、この結果には、今年度学校全体での授業改善として取り組んだ授業と探究活動における指導と評価の一体化も関係していると分析できる。探究活動を通じて深く考える力が身につくという質問に対する生徒	第1回（令和6年7月9日火曜日） ○令和6年度大阪府立富田林高等学校経営計画の改定について ・私立無償化の影響による定員割れについてはどう考えているのか。 ・下がった進学実績についてはどのように向上させるのか。 ・進学や就職が目標にならないように、質をともなった進路選択をしてほしい。 第2回（令和6年12月9日月曜日）

府立富田林高等学校

の肯定率は 88％であり、教員からの評価も 82％と高水準を維持している。今後も探究活動を充実させる方針である。 進路指導に対する生徒の満足度は 94％、保護者向けは 78％であり、蓄積されたデータを活用した組織的な指導が効果を上げている。 海外研修や交流を通じて生徒のグローバルな視野を広げる努力が続いており、関連する肯定率は 92％に達している。 一方、教員向け自己診断における分掌等の評価の肯定率は 42％であり、協働的な取り組みが進んでいるものの、情報共有の課題が残っている。 教員向け学校教育自己診断の勤務満足度は 58％であり、業務の多忙化が影響していると考えられる。定時退庁日の取り組みによる効果は見られるが、さらなる改善が必要である。	○高校の頭髮ルール改定の議論 ・生徒の意見を取り入れる手法として、賛成・反対に分かれて生徒全体でディベートを行ってはどうか。 ○コミュニティ・スクールの推進について ・学校運営協議会に生徒が参加する学校もある。また、生徒会選挙に学校運営協議委員が出席するなど、子どもの学校への思いを聴く機会を増やしてほしい。 ○海外研修・修学旅行について ・今後も生徒に異文化を体験できる学習機会を提供してほしい。 ○進路状況について ・学力の二分化傾向に対応してほしい。 ・大学に来て幅広いことを学び、広い視野を持ったまま専門性を高めてほしい。 第 3 回（令和 7 年 2 月 25 日火曜日） ○本年度総括 ・下がった進学実績を向上させる為には、どうすればいいのか？ ・3 年先の中期目標を達成するために地道な努力を続けていく。 ・学力の 2 分化について、どうするのか？ ・中学で、学力を落とさないように、オンラインで学習保証している。 ・探究活動の数値は、生徒は上がり、教員は下がった。 ・HART でのアンケート結果では、全ての項目で上がっている。 ・意識・行動の項目でも、上がっている。 ・探究活動で、国公立の推薦合格の実績がある。 ・国際研修・交流について ・ネパール・マレーシアの参加人数が増えた。 ・ロータリークラブとの連携で、生徒の意識が向上している。 ○その他 ・探究について生徒の満足度は上がっている一方、教員は下がっている →生徒の満足度が上がっていることはとても好ましい - 教員が求める水準が上がっているのか？探究Ⅱが全員になったことが影響しているのではないか？ - 地域フォーラムを見ている全員にしたことは良かったと感じる。 - 全員になったことの影響が大きいのかは、来年度の数値に注目する。 - 探究Ⅱが全員になったことは SSH 2 期の関連。 ・生徒、保護者の満足度が高いことは素晴らしい。自分も子供も満足している。 →不登校生徒数が一定以上あることに関しては平均よりも低いとはいえ残念。 ・コロナの後遺症で気力が上がらない生徒もいるかもしれない。 →社会問題になっている。 - 不登校はコロナ以前からの問題である。不登校の素地はそれまで様々な要素が影響する。 - コロナが 1 要素としてどのような影響を及ぼすのか。 - 令和二年からコロナ渦になったので現在の高 2 にどのように影響しているか。 ・集団行動ができていない。 →インターネットによって誰でも発言できるようになっていることも要素の一つか。 - コミュニケーション能力が重要。 - 寿命が延びたことで発達速度がゆっくりになっているのかもしれない。 - 情報過多になっている。取捨選択が必要。 ・協議会への出席率等 →いつも委員 5 人だけになってしまっている。 - 他校の教員にももっと参加していただけるようにする。 - 生徒の参加も、T B S への協議会委員の参加を検討。 - 生徒会選挙の映像等を見ることで、生徒の想い・ニーズを聞きたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ア 「授業改革推進委員会」を核として、観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。 イ 各教科において中高 6 年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。 ウ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1 人 1 台端末」の効果的活用を進め、その情報共有を図る校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。	(1) ア・45 分× 7 限授業（高校全学年 33 単位）により学校生活をデザインするとともに、新学習指導要領の確実な実施を行う。 ・各教員が「思考を促す授業」を心掛け、「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。 ・生徒による「授業アンケート」を 7 月、12 月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 イ・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究等他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。 ウ・オンライン学習研究委員会を中心に、授業における端末の効果的な具体的実践について情報共有を図る。	(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断における授業満足度 90％以上を維持向上させる。[90％] ・(生徒対象) 学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」85％以上を維持向上させる。[88％] ・2 回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成されたか。[100％] イ・(教員対象) 学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」85％以上をめざす。[81％] ウ・(生徒対象) 学校教育自己診断「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している」90％以上をめざす。[87％]	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度への肯定率は 89％と過去最高水準である。授業力向上の取組みが結果に結び付いた。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」への肯定率は 88％と過去最高を維持。(◎) ・授業改善シートの提出率は 100％であった。(○) イ・教員向け学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」への肯定率は 76％(△) ウ・生徒向け学校教育自己診断「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している」への肯定率は 93％と過去最高。(◎)
	(1) ア 科目「グローバル探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む。 イ・中高一貫した進路指導実現のため、進路指導部及び学力向上戦略委員会が中心となって、キャリア教育を含め様々な取組みの具現化を図る。 ・国公立大学進学者の現役合格者数72名と、難関大学（京都、大阪、神戸等）への合格者数14名の維持向上を図る。	(1) ア・本校の SSH（実践型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。 ・SSH として、「グローバル探究」において、地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO 等）との連携や海外との交流を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。南河内地域の科学教育のセンター的役割を果たす。 イ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。 ・生徒・保護者への進学説明会を適宜実施する。特に、拡大しつつある「学校推薦型選抜」「総合型選抜」についての情報提供を充実させる。 ・キャリア教育をはじめとする各種説明会の実施や、「進路だより」の発行等を通じて、進路についての情報提供を充実させる。 ・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。 ・外部模擬試験の結果等の振り返りを、データに基づき効果的に実施する。	(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断『『探究Ⅰ・Ⅱ』等の学習活動によって、深く考える力等が身につく』80％以上を維持向上させる。[83％] ・(教員対象) 学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」90％以上を維持向上させる。[92％] ・(教員対象) 学校教育自己診断「SSH の取組みは進路実現に役立つ」90％以上を維持。[95％] ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO 等）を巻き込んだ地域フォーラムを 20 団体以上の参加を得て開催できたか。[20 団体] イ・生徒の「見える化システム」の利用率 100％を維持する。[100％] ・学校教育自己診断における進路指導の満足度について、生徒対象は 90％以上を維持向上させ[94％]、保護者対象は 80％以上を維持する。[80％] ・(生徒対象) 学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」90％以上を維持向上させる。[91％] ・模擬試験結果をデータに基づき振り返る取り組みを 2 回以上実施する。[2 回]	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断『『探究』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく』への肯定率は過去最高の 88％であった。探究活動により身につく力は将来必ず役に立つ。今後とも一層充実させていきたい。(◎) ・教員向け学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」への肯定率は 82％。授業での探究的な学びをさらに推進する。(△) ・教員向け学校教育自己診断「SSH の取組みは進路実現に役立つ」への肯定率は 91％と高水準。(○) ・地域フォーラムへの団体参加は 21 団体。(○) イ・生徒の「見える化システム」の利用率は 100％を維持。(○) ・学校教育自己診断における進路指導の満足度への肯定率の生徒向け 94％(○)、保護者向け 78％。(○) 蓄積されたデータを用い、適切な進路指導を組織的に行っている成果である。 ・生徒向け学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」への肯定率 91％。(○) 本校教員による多様なニーズに応える講習のほか、外部講師によるハイレベル講習を実施した。 ・7 回実施した。(◎)

府立富田林高等学校

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康・体力をはぐくむ取り組み	(1) ア　＜中高一貫教育を通して育みたい力＞の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。 イ　国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成し、互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。	(1) ア・体育祭や文化祭等をはじめ、学校行事全般において、グローバル・リーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・中高合同の部活動指導を、できる範囲で取り組む。 イ・これまで実施してきた研修内容を踏まえ、新たな研修計画を立案する。 ・挨拶運動、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。 ・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。	(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における行事満足度 90％以上を維持する。[95％] ・部活動加入率 90％以上を維持する。[92％] イ・時代のニーズに合致した人権研修を生徒 5 回、教職員 2 回程度実施する。[生徒 5 回教職員 2 回] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における生活指導に対する理解 85％以上をめざす。[84％] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度 90％以上を維持向上させる。[92％]	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における行事満足度への肯定率は 96％(◎) 体育祭は外部の体育館で実施した。 ・部活動の加入率 92％。(○) イ・生徒向け人権研修 1 年は 2 回、2 年は 3 回、3 年は 2 回実施した。教職員向け人権研修は 2 回実施した (○) ・生徒向け学校教育自己診断結果における生活指導への肯定率は 86％(○) と過去最高。校則についても時代に即したものにするため検討中。 ・生徒向け学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度への肯定率は 92％(○) 安全安心な学校生活のために 100％をめざす。 (2) ア・海外との交流実施 3 校 (○) ベトナム、台湾、マレーシア イ・ネパールとマレーシアでの海外研修を実施した。参加者は合計 69 名。生徒の満足度も高かった。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」への肯定率は 92％(○)。海外研修や修学旅行を実施でき、生徒の満足度も上がった。今後はさらにグローバルの取り組みを拡大する。 ・アメリカの生徒とテレビ会議を実施し、7 名が参加。台湾とのテレビ会議も実施予定。参加者は延べ 14 名。合計 21 名。(△)
	(2) ア　国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。 イ・台湾の姉妹校やアメリカの交流校との関係を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修等を通じて新規姉妹校の開拓を図る。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。	(2) ア　海外での交流の可能性を探りつつ、ICT も活用しながら様々な国の生徒との交流を図る。 イ・中高 6 年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしつつ各企画を立案、実施する。 ・スマートスクール「モデル校」指定を受け、海外（アメリカ、フィリピン、ネパール、フランス等）の高校生等とテレビ会議システムを活用し、共同研究等に取り組む。	(2) ア　海外の 2 校以上の学校と交流を続けていく。[3 校] イ・ねらいを明確にした海外研修プランを検討し、参加者 20 名以上で実施する。[40 名] ・(生徒対象) 学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」90％以上を維持向上させる。[91％] ・海外の学校とのテレビ会議システムを活用した共同研究等を、生徒 40 名以上が関与する形で実施する。[40 名]	

府立富田林高等学校

4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携	(1) ア 策定した「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、中高一貫の観点から各校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。 イ 全国の中高一貫校やSSH校等の教育先進校を視察し、各校の取組みに学び、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。 (2) ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進するとともに地域貢献を推進する。 イ 教育環境を整備し、安全・安心な学校づくりに努める。	(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 - 策定した「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、中高の各取組みについての共通認識の深化を図る。 イ 全国の中高や SSH 校を視察してその取組みを学び、中高一貫教育を推進させるためのカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 3年前に全面改訂した学校 Web ページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。 (2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。 「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。 - 地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO 等）との連携を踏まえた「グローバル探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。 イ 生徒、教職員が快適に過ごせる教育環境を整備する。教育相談委員会の中高連携を強化し、全教職員での共有化を図る。	(1) ア・(教員対象) 学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての3項目の評価平均 50%以上をめざす。[42%] イ 中高一貫校や SSH 校を視察し、先進校情報を収集する。 [3校視察] ウ (保護者向け) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。[95%] (2) ア・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒対象[92%]、保護者対象[93%]とともに 90%以上を維持する。 - 地域フォーラムやオープンスクール、地域公開授業等、地域や保護者に対して学校を開く機会を5回以上作る。[8回] - 地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO 等）との連携を踏まえた「グローバル探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上で開催できたか。[20 団体] イ (生徒対象) 学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」80%以上を維持。[80%]	(1) ア・教員向け学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての3項目の評価平均 50%以上をめざすについて、肯定率は42%（△）協働的な取り組みは増えたが、情報共有が課題。 イ・広島県立広島中学校・高校、大阪府立住吉高校、京都府立洛北中学校・高校を視察。（○） ウ・保護者向け学校教育自己診断における情報発信の満足度への肯定率は 94%と最高水準を維持。（○）学習支援連絡網や HP での情報発信により評価いただいた。 (2) ア・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒向け 92%、保護者向け 92%（○） - 地域や保護者に対して学校を開く機会は8回。（○） - 地域フォーラムに21 団体参加（○） イ・生徒向け学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」82%（○）全教員に生徒に寄り添う姿勢が浸透している。
5 働き方改革の推進	(1) ア「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、また全校一斉定時退庁日の徹底等により時間外勤務を縮減する。 イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材の活用等アウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。	(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り、全校一斉定時退庁日の呼び掛けを強化し定時退勤を促す。また、月毎の時間外勤務の総時間を職員にフィードバックして働き方見直しへの契機を作り、時間外在校時間が上限（45 時間／月）を超えないようにする。 イ・校務の見直しを行い、ルーティン化している業務の廃止もしくは効率化を進め、軽減を図る。 教育活動において民間の教育産業と連携する等、アウトソーシング化を図る。	(1) ア ノークラブデーや全校一斉定時退庁日が徹底されているか。特に全校一斉退庁日を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（令和5年度46 時間 29 分）を削減する。 イ・校務の見直しを図り、二つ以上の業務の廃止をめざす。[2 業務] - 進学講習等において、アウトソーシングが図れたか。[2 年、3 年] ア、イとも、(教員対象) 学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度 85%以上をめざす。[79%]	(1) ア・12 月までの一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（35 時間 35 分）（◎）一斉定時退庁日の取組みには一定効果が見られる。しかし、中高一貫校ならではの会議、業務が多い。一貫校開校から8年が経つが、今後、より効率化していく必要がある。 イ・廃止した業務 校内体制の整備により、業務の偏りを是正し、会議の数を減らした。会議のペーパーレス化やオンライン化をさらに進めた。（1 業務）（△） - ハイレベル講習を外部委託し実施した。参加者は延べ423 名（◎） - 教員向け学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度への肯定率 58%（△）教員に求められる業務が年々増加し、多忙化していることが原因と考えられる。